架空パンク・リリック

架空パンク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
架空パンク・リリック

【Ｎコード】
Ｎ０５８９Ｘ

【作者名】
架空パンク

【あらすじ】
パンクロッカーな唾棄すべき友人・架空パンクが書いた詞（詩）を、僕・村雨がｕｐしたものです。
もともとは僕の詞が置いてある「詞集」に投稿する予定でしたが、完全に違う作品なため別個のものにします。
彼は非常にレスポンスを欲しているので、ぜひ感想書いてやって下さい。僕が伝えます。
では、お楽しみ下さい。
※二日おき０時更新

白昼夢の

夕暮れの体育館
真っ暗なホーム

いつも少しだけ世界から離れたところにだけ

平日真昼の公園
オリオンの河原

危ういこころの狭間だけにあった

幻の中で生きていたんだ僕は
中途半端に優しく淡い幻の中で

今僕は君が最後にくれた現実の中
リアリティにすぎる白昼夢を見ている

シュールな景色
リアルな絵画

僕らの時間は何かを忘れた上にしかありえなかったから

幻の中で生きていたのさ僕ら
中途半端に冷たく輪郭のある幻の中で

今僕らはかわしあった現実の中
リアリティにすぎる白昼夢を見ている

君が手渡した淡い夏休み
君が教えた止まれない午睡

僕が抱きしめた夏のツララ
僕が読み上げた夢の台本

思い出は焼けたアスファルトの上に
モンシロチョウと一緒に舞い消えた

幻の中で生きていたかった
中途半端に美しく永遠な幻の中で

今僕は君が最後にくれた現実の中
リアリティにすぎる白昼夢を見ている

パンク・ロック

教科書よりベイ・エリアに
黒板よりリヴァプールに
僕の心は飛んでった

青いあおい空の向こう
イメージの宇宙を僕は信じてる

確かにリアルはそこにあるけれど
夢心地でいちゃいけないわけじゃない

格好悪くって美しい
下手っくそでハートに響く
そんなパンク・ロックをトランジスタ・ラジオであの日聴いたよ

帰り道よりハイウェイに
テレビよりヒューストンに
もう止まれない走り出した

赤いあかい日差しの彼方
水平線の向こうを僕は夢見てる

歴史はつまらないことを語るけど
壊しちゃいけないなんて誰も言ってない

格好悪くって美しい
下手っくそでハートに響く
そんなパンク・ロックをトランジスタ・ラジオであの日聴いたよ

クソッタレなリアルにリアリティを
つまらない言葉に魂を

悲しみは幸せは
空き缶に詰めてマンハッタンから銀河の彼方

残った僕の世界に今このときだけを

格好悪くって美しい
下手っくそでハートに響く
そんなパンク・ロックをトランジスタ・ラジオであの日聴いたよ

破片（前書き）

これは、作者の架空パンク曰く、僕・村雨が書いた「ほどいた線の先」に触発されて書いたとのこと。

破片

街灯の光だけが点々とある
田舎町田んぼの真ん中の道
週に一度だけ君と歩いた道

君になんとかして
笑って欲しかった
僕をわかって欲しかった
君の前でだけは
ひねくれた嫌なやつではいたくなかった

幸せそうな君の笑顔が
僕のために流してくれた涙が
僕は嬉しかったんだ

寂しいリアルが
積み上げた失敗が
弱い僕には重すぎて
君に頼った幸せは
酷く心地よかった

壊れた心を
壊れた表情を
君に本物だと思って欲しかった
どこかに置いてきた僕は
もうもどれないと諦めたかった

今僕は　君を傷つけてしまった僕は

たった一人で圧倒的なリアルに呑まれて
掴みかけた白昼夢をまだ追いかけてる

君と一緒にいたい
君と一緒に笑いたい
君のために涙を流してあげたい

そんな願いは僕には不相応でしょうか
一言答えてください

僕は君が好きなんだ
間違いなく好きなんだ

情けないことはもう言わないから
君に縋り付くことはもうしないから
僕はリアルの中で白昼夢を見るんだ

君がくれたリアル
君がくれた白昼夢

だから頼むよ
一言答えてくれよ

あと一つだけ欠けたリアルは
君だけなんだ

放課後の旅人

君の手を引いてどこか彼方を目指すよ
夕暮れ道端飛んで行った空き缶
そうさ僕は放課後の旅人

チャイムの合間にハミングを
外れた美学を歌声に
グランドの向こうには僕がいる

ノートに延々と書きつける
誤答の真理をただそこに
沈んだばつ印は僕になる

眠れない夜にレコードを
流れ星の行く先を聞きに行く
朝日が僕を追い立てるから

君の手を引いてどこか彼方を目指すよ
夕暮れ道端飛んで行った空き缶
そうさ僕は放課後の旅人

ベランダの彼方見えたのは
東の空に線路の果て
そうさ僕は放課後の旅人

放課後の旅人（後書き）

架空パンク自身のこと、とのこと。
僕・村雨から見てもこんな感じですね。

夕暮れ

夜が東の空から近づいて今日が西へと消えていくそんな時間
今日が最期に手を振って僕は口笛で返してあげた

明日は不安と期待ではち切れそうで
さよならした今日は名残惜しくて
僕は今やってくるものをじっと見つめている

十分か十分だ
君とギターとサイコロがそこにあれば
十分か十分だ
生きているってことなのだ

夕日が残した辞世の句はさようならでもありがとうでもなく
ただ一言の「また明日」続くってことかそうなのか

僕は今ここにいる確かに生きている
君に会いたいなあ夢は叶うかなあ
憂鬱がある希望がある今ここには全部がある

十分か十分だ
君とギターとサイコロがそこにあれば
十分か十分だ
生きているってことなのだ

架空パンクと想像ブルース

架空パンクは笑い声
「やってしまったな、まったくくだらない」
想像ブルースは叫び声
「どうしてなんだ、本当に気に入らない」

始まりから違う　パンクとブルース
終わりが重なりそうで何だか失笑

不幸と幸せをイコールで結んで
僕らと歴史を天秤にかけよう

架空の夢でスティックアウト
想像の今でダグアウト

絡まった今になんでもよくなった

「どうしてこうなったんだっけ」
「なるべくしてなったんだ」
「似たような夢を見た気がする」
「あんまり面白くないやつな」
「ま、なるようになるんだろ」

始まりはいつか　パンクとブルース
終わりも忘れてていつの間にか苦笑

想像と現実をイコールで結んで
明日と今はニアリーイコールか？

架空の夢でスティックアウト
想像の今でダグアウト
絡まった今になんでもよくなった

架空パンクと想像ブルース（後書き）

たぶん「想像ブルース」は僕・村雨のことです。十中八九。
余計なもん書きやがって（笑）

放課後の旅人（原詩）

ここから遥か遠く
ただ一つに溶けたなにもかもの果て
きっと君なら出かけてくれるだろ
放課後の旅人

屋上でただ一人
ただ一つを手に入れるために
ダイヤよりもプラチナよりも硬い青空を君は殴るのだ
青空の向こう　ぼんやりした宇宙
痛む拳に怯んでも
殴るのだ　放課後の旅人

ベランダの彼方に見えたのは
なにもかも一つに溶けた水平線
それから歩き出す　彼方へ消えて行く

目指したのは永遠の放課後
あなたなら彼方ならたどり着いて見せるんだろ
放課後の旅人

表も裏も右も左も上も下も
小さな空き缶に詰めて君は夕暮れへ蹴飛ばした
夕日の向こう　広がりすぎた世界
どこへ飛んで行ったのか
放課後の旅人

名前は溶けて消えた　言葉すらも懐かしい

言い残した愚痴も君は一緒に溶かしてしまった
言葉の彼方　美しくイメージ
何から始めよう
放課後の旅人

ベランダの彼方に見えたのは
なにもかも一つに溶けた水平線
それから歩き出す　彼方へ消えて行く

目指したのは永遠の放課後
あなたなら彼方ならたどり着いて見せるんだろ
放課後の旅人

ここから遥か遠く　ただ一つに溶けたなにもかもの果て
きっと君なら出かけてくれるだろ
放課後の旅人

放課後の旅人（原詩）（後書き）

タイトル通り、前ｕｐした「放課後の旅人」の原詩。
これは、架空パンクにとっての最高傑作らしいです。

戦場少年

突き刺さる一発血まみれの青空
硝煙　硝煙
地響きの一撃くり抜かれた大地
砲声　砲声

ハックどこだ　ハックそこか
英雄になりたいんだ　ただじゃ終われない
英雄になりたいんだ　ただじゃ終われない

クリスそうだろ　クリス

向日葵と茨　どこまでも続く
遥か彼方　遥か彼方

閃いた閃光切り裂く夕暮れ
爆音　爆音
揺らめいた炎打ち消された夜空
爆発　爆発

ハックどこだ　ハックそこか
英雄になりたいんだ　ただじゃ終われない
英雄になりたいんだ　ただじゃ終われない

クリスそうだろ　クリス

向日葵と茨どこまでも続く
遥か彼方　遥か彼方

硝煙が消える砲声が止んだ
爆音が消えた爆発が死んだ

君はいるそこにいる

勲章より名誉より
勲章より名誉より

戦場はまた動き出す

ハックどこだ　ハックそこか

英雄になりたいんだ　ただじゃ終われない
英雄になりたいんだ　ただじゃ終われない

クリスそうだろ　クリス

向日葵と茨どこまでも続く
遥か彼方　遥か彼方

想う唄

なんだかときたま心のどこか
本物らしいとこが痛みます

一度飲み込んだ寂しさが
なぜだか今日は、冷たくあります

あなたが宥めた幼い僕が
バラアド唄って引き掻くのです

ギュッとしたのは奥ではなくて
一番見えてるところです

詩情も趣もかけらのない
本物らしくて汚いところ

そこがギュウッと寒いのです

あなたがそっと抱き寄せたなら
僕は眠って夢を見ましょう

あなたがそばにはいないから
僕はこんなに僕であります

どうにか、どうにか
そうっと応えてはくれませんか

少しばかり、僕は疲れてしまいました

どうにか、どうにか
そうっと応えてはくれませんか

想う唄（後書き）

「白昼夢の」「破片」の２つの原詩とのこと。

一番ホーム

一番ホームに上り列車がやってくる
行き先は速い街
ここよりなにもかもが速い街
皆ガンバレよ

一番ホーム、ベンチの上
僕は列車を待っている
時刻表にない列車を
来るはずのない列車を

一番ホームの僕の隣に君が座る
アイラブユーをささやいて
さようならと手を振った
いつかまた

一番ホームに下り列車がやってくる
くたびれた乗客
帰ろうずっと遠くへ
お疲れ様

一番ホーム、ベンチの上
僕は列車を待っている
時刻表にない列車を
来るはずのない列車を

列車は延々と時刻表通りに
何度でも何度でも

同じように

一番ホームの僕の肩車掌さんが手を置いた
選びなさいとポンと叩かれ
頑張るよと答えてみる
いつか帰る

一番ホーム、ベンチの上

一番ホームのベンチの上、下り列車を待っている
隣に座ってたおじさんが忙しそうにドアをくぐった
上り列車のガラス窓を、じっと新聞越しに見つめて

列車がゆっくり動き出した
知った顔がいくつも通り過ぎる

さようなら、またいつか
さようなら、またいつか

僕の隣に君が座った、下り列車を待つ僕の隣
ぎこちなく君の手に手を重ねて
そっとホームの青空を見る
行き先は全部おんなじ青空の下

君は上り列車に乗るのだと言う、行き先は違ったらしい
君を乗せた列車は行ってしまった

一番ホーム、ベンチの上
僕はいつまでも下り列車を待つ

一番ホーム、ベンチの上

一番ホーム、ベンチの上（後書き）

「一番ホーム」の原詩らしいです。
架空パンクは尾崎豊ファンなので、たまにこうして原詩を書くとのこと。
書き方って色々だなぁ。

狼男の詩

暗い夜か　満月か
昼間の国道沿いに夢を見た
暗い夜か　満月か
陸橋の上に月は落ちる

夜を望むのか
夜を望むのか

流れ星、静止する

狼男だ　狼男だ
真ん丸なのは太陽か
昼間にもがいた狼男
夜は遠いか　夢は遠いか

冷たい夜か　街灯か
昼どきの教室に星を見た
冷たい夜か　街灯か
屋上に刺さるのか流れ星

夜を望むのか
夜を望むのか

流れ星、静止する

狼男だ　狼男だ
眩しいそれは太陽か

光に刺された狼男
夜は遠いか　星は遠いか

ケモノに生まれたわけじゃない
夜が欲しい
飢えている

流れ星、静止する

狼男だ　狼男だ
満月は凍って空へ
それでも僕は狼男
夜は遠いか　月は遠いか

狼男の詩（後書き）

架空パンク曰く、最高傑作ぎみ。

ロックンロールが聞こえない

敗北の色　否定の音
寂しい夜は独りきり
外には春の星が降って
僕は部屋で独りぼっち

ごまかしと嘘が過去をつついて
苛立ちと後悔に眠れない
夢も見られない沈黙と闇
こんな夜に取り残されて

ロックンロールが聞こえない

不信の臭い　裏切りの時
切ない朝は独りきり
外には夏の日が待って
僕は部屋で独りぼっち

間違いと誤解が今を壊して
恐怖と不安に歩く力もない
窓も覗けない孤独な憔悴
こんな場所に座り込んで

ロックンロールが聞こえない

君は笑った寂しそうに
その笑顔があんまり綺麗で
僕は悲しくなるんだ

涙も流せない本当の寂しさ

ロックンロールが聞こえない

モンシロチョウ

向日葵畑にモンシロチョウが遊ぶ
「どーでもいいよ、楽しいじゃないか」
フワリフワリと呟いた

雨が降ったら虹を待つんだ
向日葵の葉っぱの裏
その花はきっとお日様を向いている

フワ　フワ　フワリ

モンシロチョウ

フワ　フワ　フワリ

大きいから年寄りだから
お日様に近いとは限らない
水溜まりに映ったお日様の美しさを
若い向日葵はしっている

フワ　フワ　フワリ

モンシロチョウ

フワ　フワ　フワリ

冬の向日葵の背丈を越えて
夜空へ飛んだモンシロチョウ

お日様は砕けて群青の空へ
「なんだ行き先はどこでもよかったのか」

フワ　フワ　フワリ

モンシロチョウ

フワ　フワ　フワリ

涙の意味

死にたかねぇけど人は死ぬ
言葉はいつだってクソッタレで
どうにもならないことが多過ぎる
青白い僕のこの腕じゃ
世界は変わりゃしないのだ

僕は小さく呟いた
誰にも聞かせられない叫び声
涙の意味を教えよう

悲しいから泣いたんじゃない
怖いから泣いたんじゃない
悔しいから泣いたんだ
僕は負けてなんかいやしない

優しいだけじゃなんにもできないから
愛してるはいつだってクソッタレだ
どうでもいいことが多過ぎる
チューインガムをかみながらじゃ
うまく歌えないだろ

強くたってなんにも変わらないから
ガンバレはいつもクソッタレだ
どうでもいいじゃないかと毒づいて
マイクロホンを僕は握った

大きな声で歌うんだ

僕にしかわからない叫び声
涙の意味を教えよう

悲しいから泣いたんじゃない
怖いから泣いたんじゃない
悔しいから泣いたんだ
僕は負けてなんかいやしない

十四歳（スタンド・バイ・ミー）

悲しいニュースを見た
僕は本気で怒ったんだ
喚き散らしてみたら
ガキが何ぬかすと笑われた
何が出来ると笑われた
何か出来るかもしれないじゃないか

皆幸せでいるべきだ
悪い奴なんか死んじまえ
なあクリス　僕は間違っているかい

英雄になってみたい
僕は真夜中に思ったのに
死に物狂いになってみたら
嫌なヤローだと蹴飛ばされた
何のためにと馬鹿にされた
知るかそんなこと

一生懸命はいいことだ
腑抜けた奴は死んだも同じ
なあテディ　僕は間違っているかい

本当よりももっとホンモノをくれないか
本当よりももっとホンモノをくれないか

こんな世界は違うんだ
線路のその先を僕は見てる

正しいことを口にしたら
生意気だって吐き捨てられた
現実を見ろって言われた
現実を変えてやる

間違いは正すためにある
見て見ぬフリは重罪だ
なあバーン　僕は間違っているかい

本当よりももっとホンモノをくれないか
本当よりももっとホンモノをくれないか

掌

右の掌と左の掌で
いったい何ができるだろ
あなたの肩を支えることも
あなたの涙を拭うことすら
僕の両の掌には難しい

だから掌を僕はメガホンにして
あなたにガンバレって言ってやるんだ
あなたに触れることすらできなくっても
ガンバレって言ってやる

あなたが苦しむその何かに
クソッタレって叫んでやるんだ

僕のこの小さな掌で
いったい何ができるだろ
あなたの肩を抱きしめることも
そっと頭をなでてあげることも
僕には勇気が足りないんだ

だけど今度こそ僕は言うんだ
Ｉ　ｌｏｖｅ　ｙｏｕ　ってきっと言ってやるんだ
あなたをなぐさめてあげられなくても
僕はあなたのそばにいるんだ

ただっぴろい世界の小さな掌を
あなたの掌と重ねてあげるんだ

フォーユー・フォーユー

図書館の電灯　つまらない
君は光っている
理屈はいらない　理不尽に

フォーユー　フォーユー
いつか言いたいそんなこと
誰かじゃダメなんだ
あなたに宛てて

曇る夜の一番ホーム
ちょっとだけおしゃべり
何でもないけど　何でもあるんだ

フォーユー　フォーユー
言っておきたいことがある
言わなきゃダメなんだ
またいつか

帰りの電車独りきり
忘れられない　忘れていない
僕は君が好き

フォーユー　フォーユー
あなたに伝えたいそんなこと
あなただけにだよ
僕は君が好き

ピストル・ロッカー

Ｄａｎ－Ｄａ－Ｌｉ－Ｄａ－Ｄａ－Ｄａ，Ｄａ－Ｌｉ－Ｌｉ－Ｄａ
－Ｄａｎ
４４口径　理不尽に火を噴いた
Ｄａｎ－Ｄａ－Ｌｉ－Ｄａ－Ｄａ，Ｄａ－Ｌｉ－Ｌｉ－Ｄａ
－Ｄａｎ
外れはない　理由もない　弾丸だけ
Ｄａｎ－Ｄａ－Ｌｉ－Ｄａ－Ｄａ，Ｄａ－Ｌｉ－Ｌｉ－Ｄａ
－Ｄａｎ

あのとき　ああすれば　きっと
随分前に　僕ら　聞き飽きた
何か始めよう

ジーンズに穴あけて安全ピンで止めて
Ｔシャツにペンキをぶちまけて

どうだい新しい僕らだ
今から　ここから　きっといけないこと

Ｄａｎ－Ｄａ－Ｌｉ－Ｄａ－Ｄａ，Ｄａ－Ｌｉ－Ｌｉ－Ｄａ
－Ｄａｎ
４４口径　理不尽に火を噴いた
Ｄａｎ－Ｄａ－Ｌｉ－Ｄａ－Ｄａ，Ｄａ－Ｌｉ－Ｌｉ－Ｄａ
－Ｄａｎ
外れはない　理由もない　弾丸だけ
Ｄａｎ－Ｄａ－Ｌｉ－Ｄａ－Ｄａ，Ｄａ－Ｌｉ－Ｌｉ－Ｄａ
－Ｄａｎ

明日こそは　いつか　きっと
大分前に　僕ら　話し過ぎた
何か始めよう

チューインガムに毒づいて
道行く人を睨みつけた

今から　ここから　クソッタレなこと

Ｄａｎ－Ｄａ－Ｌｉ－Ｄａ－Ｄａ，Ｄａ－Ｌｉ－Ｌｉ－Ｄａ
－Ｄａｎ
４４口径　理不尽に火を噴いた
Ｄａｎ－Ｄａ－Ｌｉ－Ｄａ－Ｄａ，Ｄａ－Ｌｉ－Ｌｉ－Ｄａ
－Ｄａｎ
外れはない　理由もない　弾丸だけ
Ｄａｎ－Ｄａ－Ｌｉ－Ｄａ－Ｄａ，Ｄａ－Ｌｉ－Ｌｉ－Ｄａ
－Ｄａｎ

今まで見てきたもの全部
今まで夢見たもの全部

デタラメに変えてしまって
今を僕らのものにした

ピストル・ロッカーは歌わない

Ｄａｎ－Ｄａ－Ｌｉ－Ｄａ－Ｄａ，Ｄａ－Ｌｉ－Ｌｉ－Ｄａ
－Ｄａｎ
４４口径　理不尽に火を噴いた

Dan—Da—Li—Da—Da—Da, Da—Li—Li—Da

—Dan

外れはない　理由もない　弾丸だけ

Dan—Da—Li—Da—Da—Da, Da—Li—Li—Da

—Dan

架空パンクとロストソング

夢が与えた　未来が照らした
光は僕らの中　折り重なって毒になる
希望の中に顔を出して
思い知った真冬の空気に
毒を吐き出した僕らの季節

もう少しだけリアリティを
もう少しだけ存在感を
あの頃の僕らが掴めたのなら

さよなら架空パンク
さよならロストソング
もう歌えないよ　曖昧な歌詞

百円玉で買えてしまう温もりに
ブラウン管が見せてしまう世界に

さよなら架空パンク
さよならロストソング
もう歌えないよ　曖昧な歌詞

僕が吐き出した　君が言葉にした
暗号の群像が　積み重なって形を変える
「今度こそ」と手を伸ばして
握りしめた真冬の枯れ草に
毒も吐けなかった僕らの季節

さよなら架空パンク
さよならロストソング
もう歌えないよ　曖昧な歌詞

架空パンクとロストソング（後書き）

漫画「ソラニン」に向けての詞でした。
架空パンクは「改題」と表現しています。

この世の果て

地平線には青空と水溜まりが重なって
星も月も雲も足元にある
二重写しのこの世の果て
君と二人で手をつないでる

僕はちょっとだけ格好つけた服を着て
君は涼しそうな黒いＴシャツにジーンズ

ＯＨ…　この世の果てに君と二人
ＡＨ…　君と僕は星を数えて
二人ただ永遠を歩いてく

雨上がりの夜空に雨が降っている
星も月も雲も濡れているよ
きれいに流れるこの世の果て
君と二人で手をつないでる

僕は君を見つめて少しおどけた顔をして
君は僕を見てちょっぴりはにかんでいる

ＯＨ…　この世の果てに君と二人
ＡＨ…　君と僕は星を数えて
二人ただ永遠を歩いてく

この世の果てには何もなくて
星空から雨が降る
月はさざなみのような泣き声を

雲一つない雨模様の夜空

永遠の雨上がりを君と二人

ＯＨ…　この世の果てに君と二人
ＡＨ…　君と僕は星を数えて
二人ただ永遠を歩いてく

この世の果て（後書き）

今度こそ、最高傑作らしい。

この詞、表面だけでは普通なんだけど、実は世界観が独特なんですよね。

この世界と、架空パンクが初めて自分の意志で「誰かのために行きたい」と思った場所・ウユニ塩湖のイメージが被ったらしいです。

新たな境地に入ったように感じます。

カオス

モノクロームが続く
裸足でアスファルトを踏み締める
１センチ先は茨と向日葵の海

捜し物は直径１２センチ
そいつが世界を極彩色に塗り替える

カオスの果て　渾沌の彼方
虹色の隕石が灰色の太陽に突き刺さる
瞬間が勝負だ
呑まれるな染めろ

騒音が包み込む
擦り傷だらけで海を渡れ
３０００マイルの向こうはまだ海

見つけたものはあなただけ
一瞬に騒音は砕けて舞い上がる

カオスの果て　渾沌の彼方
灰色の太陽が騒音の海に沈む
今が全部だ
聞こえるだろたった一つ

アナーキスト・パレード

神様のいない世代に生まれた
まるで僕らロストジェネレーション
ヘミングウェイの溜息「日はまた昇る」

夢を叶えるということは
きっと夢を現実にすること
路地裏の日だまりと
英雄の像がニアリーイコール

古びた幸せを忘れて
錆び付いた未来を砕いて
行け　アナーキスト・パレード

ただ球形の世界に生まれた
そうさ僕らロストジェネレーション
スタインの罵倒「失われた世代」

理想郷というものは
きっと理想以外を捨てたこと
君がくれた優しさと
僕らの寂しさは胸の奥から

古びた幸せを忘れて
錆び付いた未来を砕いて
行け　アナーキスト・パレード

形になった自由と理念

黒く塗り潰してさあ行進
マルクスの夢もレノンの夢も

古びた幸せを忘れて
錆び付いた未来を砕いて
行け　アナーキスト・パレード

ハッピーバースデー

生きている人には意味がある
生まれたからには意味がある

生きている人は格好いい
生きているから君は君だ

ああ　あの日　流れ星と一緒に
星屑の砂漠を歩き出した
僕が生まれた日　君が生まれた日

ハッピー　バースデー
ご機嫌な記念日

今があるから僕らは笑ってる
今だからこそレコードを聴こう

今あるものが確かなもの
今あるからこそ僕と君は

ああ　あの日　流れ星と一緒に
星屑の砂漠を歩き出した
僕が生まれた日　君が生まれた日

ハッピー　バースデー
ご機嫌な記念日

下手くそロックンロール

はみ出し者　ロクデナシ　厄介者
僕らそうさ　つまはじき

うまく喋れない　そんな柄じゃない
うまく聞かせたい　そんな柄じゃない

チョーキング一撃
音に乗せろ　音に乗せるんだ
ぶち込めエイトビート
しゃらくせえ　しゃらくせえ

はみ出し者　ロクデナシ　厄介者
僕らそうさ　吹き溜まり

うまく触りたい　そんな柄じゃない
うまく話したい　そんな柄じゃない

チョーキング一撃
音に乗せろ　音に乗せるんだ
ぶち込めエイトビート
ＩＬｏｖｅ　Ｙｏｕ，ＩＬｏｖｅ　Ｙｏｕ

チョーキング一撃
音に乗せろ　音に乗せるんだ
ぶち込めエイトビート
ガンバレ　がんばるんだ

ブーゲンビリア

話したいことたくさんあるけど
ひとつひとつしどろもどろで
伝えたいこと半分くらい
君は聞いてくれたのかな

晴れた空には夏のおもかげ
僕の心にはりついたまま
きっとあの日のブーゲンビリア
まだ揺れている

南風に吹かれたこころ
運ばれてきたお日様の香りに

聞きたいことたくさんあるんだ
君はなんだか口下手な人
目を見合わせてふふっと笑う
幸せはきっとここに

晴れた空には夏のおもかげ
僕の心にはりついたまま
きっとあの日のブーゲンビリア
まだ揺れている

南風に吹かれたこころ
運ばれてきたお日様の香りに

リバーサイド・ドリーム／猛毒ライダー／ロベール（前書き）

２００字にいたらなかった３つの詩をまとめました。

とくにこれらに繋がりはありません。

ご了承下さい。

リバーサイド・ドリーム／猛毒ライダー／ロベール

【リバーサイド・ドリーム】

小さな川の水平線
僕には見えたよ　きっと見えたよ
眠たい朝の工場の空
グラナダが見えたのはたぶん嘘じゃない

リバーサイド・ドリーム
一瞬だけ
リバーサイド・ドリーム
遠くに見えた

汚れた川の果てしなく
僕には聞こえた　きっと聞こえた
一日の終わり　辞世の空
ニューヨークの空だって同じ色さ

リバーサイド・ドリーム
一瞬だけ
リバーサイド・ドリーム
遠くに見えた

リバーサイド・ドリーム
一瞬だけ
リバーサイド・ドリーム
遠くに見えた

【猛毒ライダー】

はしるぜ　はしるぜ
後輪から猛毒
月に前輪掛けてるぜ

ブン　ブン　ブーン　国道を
ブン　ブン　ブーン　無重力

ブーンと俺の身体
ブーンと猛毒まみれ

猛毒ライダー　人助け
猛毒ライダー　指名手配

革ジャン　亜硫酸
ジーパン　青酸カリ
ブーツにダイオキシン

ブン　ブン　ブーン　国道を
ブン　ブン　ブーン　無重力

ブーンと俺の身体
ブーンと猛毒まみれ

猛毒ライダー　人助け

猛毒ライダー　指名手配

【ロベール】

ロベール　嫌われもの
知りたくなかった　ロックンロール
教えてやるぜ　刺激的

意味なんてねえから嘘はねえ
ロベール　一生モノを叩き売りだぜ

ボーダー　そこだ　ボーダーライン
白黒つかない　そっから先は

ロベール　歌え　ロックンロール

意味なんてねえから嘘はねえ
ロベール　一生モノを叩き売りだぜ

ボーダー　そこだ　ボーダーライン
なんにもないぜ　そっから先は

ロベール　歌え　ロックンロール

１８歳の掌

なんなんだよこれどうしようもない
僕が小さい　小さ過ぎる

アイラブユーも怒りの声も
少しずつズレてるじゃないか

ああ　上手くお喋りしたい
ひっくり返せる力があるなら
世界ももう少し白黒ついたろう

歩道橋の上　少しずつ足並み速く
夕暮れの光　誰かが遠ざかったんだ
１８歳の掌　何かをはきちがえた

どうなってるんだよこれわけがわからない
夜が重い　重過ぎる

ファッキンユーも掲げた拳も
なんだか虚しいじゃないか

ああ　意味だけでも与えてよ
生きていることに本当があるなら
もう少し考えることも減っただろ

歩道橋の上　少しずつ足並み速く
夕暮れの光　誰かが遠ざかったんだ
１８歳の掌　何かをはきちがえた

歩道橋の上　少しずつ足並み速く
夕暮れの光　誰かが遠ざかったんだ
１８歳の掌　何かをはきちがえた

どうしたかったのかもはっきりしない
だんだん物忘れが酷くなって
いつの間にか街角と同じ色の瞳

酒と薬の匂いがするよ
君も僕も　いつからだろ

どうしろって言うんだこんなことばかり
君が寂しい　寂し過ぎる

チェルノブイリも僕の街も
きっとおんなじ匂いがする

ああ　綺麗じゃなくってもいいからさ
ひとつだけホントの幸い教えてよ
ホントに美しいものを教えてよ

どうしたかったのかもはっきりしない
だんだん物忘れが酷くなって
いつの間にか街角と同じ色の瞳

酒と薬の匂いがするよ
君も僕も　いつからだろ

歩道橋の上　少しずつ足並み速く

夕暮れの光　誰かが遠ざかったんだ
１８歳の掌　何かをはきちがえた

歩道橋の上　少しずつ足並み速く
夕暮れの光　誰かが遠ざかったんだ
１８歳の掌　何かをはきちがえた

ギロチン・ジャンキー

生まれたときから死刑囚
重罪人なんだ　情けはいらねえよ
同情するなら　持ち物寄越せ

誰と誰が幸せで　誰と誰が正しくて

洒落くせえこと言ってると
断頭台が一撃するぜ
ギロチン・ジャンキー　いい音するぜ
口笛吹いてる風来坊

生きてるからには死刑囚
地獄生まれさ　情けはいらねえよ
興味あるなら　地獄に落ちな

誰と誰が幸せで　誰と誰が正しくて

洒落くせえこと言ってると
断頭台が一撃するぜ
ギロチン・ジャンキー　いい音するぜ
口笛吹いてる風来坊

神様ん家に落書きしてやるよ
仏様ん家に白蟻放り込んでやる

誰と誰が幸せで　誰と誰が正しくて

洒落くせえこと言ってると
断頭台が一撃するぜ
ギロチン・ジャンキー　いい音するぜ
口笛吹いてる風来坊

死刑の神様

神様どこ見てんだ
あいつと　あいつと　あいつと　あいつだよ
恩赦が出たのか？そういうことか
それじゃあオイラもまたどこかで

重罪・死刑だ　重罪・死刑だ　重罪・死刑だ

死刑の神様お恵みを
いいやつばっかにしてくれないか？
どうしたんだよ？死刑の神様
早くしないと脱獄しちゃうぜ

神様聞いておくれよ
あいつと　あいつと　あいつと　あいつだよ
ギリギリセーフか？そういうことか
それじゃあオイラにもおめこぼしを

重罪・死刑だ　重罪・死刑だ　重罪・死刑だ

死刑囚が多過ぎたんだな
ギロチンの歯が錆び付いてら
みんな悪くてみんなサイコー

死刑の神様お恵みを
いいやつばっかにしてくれないか？
どうしたんだよ？死刑の神様
早くしないと脱獄しちゃうぜ

死刑囚が多過ぎたんだな
ギロチンの歯が錆び付いてら
みんな悪くてみんなサイコー

重罪・死刑だ　重罪・死刑だ　重罪・死刑だ

ヒトラーの歌（前書き）

村雨「なんでこんな社会的にアレな詩書いたの？」
架空パンク「チョコクッキーの和訳を考えてた」
みたいな詩です。

ヒトラーの歌

ヒトラー　あんたは悪くない
少なくとも僕らよりは

くだらない世の中だとして
間違った世の中だとして

僕らの命が犠牲の上に立ってるとして
ヒトラーと同じ数の人間を
殺してないとどうして言えるんだ

ヒトラーは両の目で見た
世紀の悪役は全て認めた

ヒトラーの方がまだマシじゃないか
知らない振りする人殺しより
堂々と認める人殺しの方が

ヒトラーの方がまだマシじゃないか

ヒトラー　あんたは悪くない
少なくとも僕らよりは

最低の世の中なんだ
認めなきゃいけない

アドルフ・ヒトラー　はあざけるだろうぜ
”自分が間違ってることもわからない
　なんてデキの悪い平和なんだろう”
ヒトラーの方がまだマシじゃないか
夢の中で見た平和より
本当の世界の戦争のほうが
ヒトラーの方がまだマシじゃないか
アドルフ・ヒトラーはあざけるだろうぜ

ギャンブル・ギャンブル

なんだかうまいこと騙された気がするぜ
負けちまっただけのことだけど
勝ったやつの顔を何故か知らない

ギャンブル・ギャンブル
金はどこへ行ったんだ
ホントにここにあったのか？

どうやらうまいこと持ってかれたみたいだ
運がなかっただけのことだけど
誰が持ち逃げしやがったんだ

ギャンブル・ギャンブル
お宝はどんな形だったんだ
ホントにここにあったのか？

勝った負けただ洒落くせえ
みんな最後はスッカラカンだぜ

ギャンブル・ギャンブル
最初っから何にもねえ
ここにあったのは空の財布さ

高速道路

気違い道路だ
制限時速は気分次第
事故だの故障だのスピード違反だの
ちゃちな考え捨てちまいな

あんまり速いと衝突事故
あんまり遅いと衝突事故

ハイウェイ　スピードに記憶が飛んじまう
ハイウェイ　スピードに記憶が飛んじまう

気違い道路だ
インターチェンジが見つからねえ
家だの街だの遊園地だの
ちゃちな考え捨てちまいな

あんまり速いと衝突事故
あんまり遅いと衝突事故

ハイウェイ　スピードに記憶が飛んじまう
ハイウェイ　スピードに記憶が飛んじまう

あんまり速いと衝突事故
あんまり遅いと衝突事故

夜の使者

日が沈むうっとうしい太陽が
真っ赤に沈む
自転車を玄関から引っ張って
陸橋を登ろう

今夜はいい天気だ
どこまで走っても心配ない
もうすぐあどけない夜の使者が
僕らを迎えに来る

カラカラ車輪を回して
ゆっくりこごう
急ぐ必要なんかどこにもない
今夜は長いんだ

バカバカしい話をしよう
喧嘩にいたずら
好きなことを話してくれ
ここに太陽はないから

今夜はいい天気だ
どこまで走っても心配ない
もうすぐあどけない夜の使者が
僕らを迎えに来る

つたないノーミソでつたない話をして
僕らは人間らしく笑ってて

十分だろ夜の使者
君があなたが僕がそれが
そうだろ夜の使者

座り込んだコンビニ
星より明るい電灯
もうすぐ夜が明けてしまう
夜は西へ西へ

今夜はいい天気だ
どこまで走っても心配ない
もうすぐあどけない夜の使者が
僕らを迎えに来る

エデンは遠く（前書き）

金正日に捧ぐことば。

エデンは遠く

今日死んだら　明日はいない
昨日死んだら　今日はいない

それだけの話なんじゃないのか

独裁者が死んだ　ただのお爺さんだ
祈りを捧げよう
そんな時代さ

アダムの罪が産んだもの
そろそろ僕らの一部だ
エデンに帰ろうだなんて思わない

何が悪いことで　何がいいことで
何が正解で　何が過ちで

そんなもの　古臭いだけなんじゃないのか

独裁者が死んだ　ただのお爺さんだ
祈りを捧げよう
そんな時代さ

アダムの罪が産んだもの
そろそろ僕らの一部だ
エデンに帰ろうだなんて思わない

国境も国旗も国籍も

命に関係あるわけないじゃないか

独裁者が死んだ　ただのお爺さんだ
祈りを捧げよう
そんな時代さ

アダムの罪が産んだもの
そろそろ僕らの一部だ
エデンに帰ろうだなんて思わない

エデンは遠く（後書き）

架空パンク曰く「コメントくれないとどんどん不謹慎になっちゃうぞ（はあと）」

誰か助けて。

アンチ

オンリーワンだとか個性だとか
流行り言葉に騙されちゃいけないよ

ナンバーワンはオンリーワンさ
僕らたいしたヤツじゃない

名前を残すとか歴史に残るとか
ちゃちな考えしちゃダメさ

偉い人は時代が産むのさ
宝くじでも引いたらいい

反発　反発　反対　反発　裏返し
ちょっと考えてみてごらん
哲学忘れちゃいけないぜ

食らいつくとかハングリーだとか
簡単に覚悟しちゃいけないよ

努力次第でなんとかなるなんて
なんて最低な夢だろう

反発　反発　反対　反発　裏返し
ちょっと考えてみてごらん
哲学忘れちゃいけないぜ

きっともっときっと簡単で

きっともっときっとご機嫌さ

反発　反発　反対　反発　裏返し
ちょっと考えてみてごらん
哲学忘れちゃいけないぜ

キス・ザ・ワールド（前書き）

架空パンク曰く「被災者支援と人類批判」。

みんな本当はこう思っているはず。

もっとシンプルに。

キス・ザ・ワールド

嘘つきが高く笑う
声のデカイやつが叫ぶ
踏ん反り返ったジイさんや
金切り声のバアさんに

僕らの命は語れないだろ

アース・クエイク　大地が震えた
嘘が振り落とされて
ホントの形が残された

人殺しの雨が降る荒野の真ん中
僕らはキスができるかい？

生きてる世界にキスをしよう

お金なんかじゃなくて
タテマエなんかじゃなくて
こんがらがった哲学なんかじゃなくて
言わなきゃいけないことがある

一番大事なことは　死ぬのは嫌だってこと

アース・クエイク　大地が震えた
嘘が振り落とされて
ホントの形が残された

人殺しの雨が降る荒野の真ん中
僕らはキスができるかい？

生きてる世界にキスをしよう

まあるい青いこの星は
札束のものじゃなく
死体の脳みそのものじゃなく
生きてる　恋する　夢見る　僕ら

一番大事なことは　死ぬのは嫌だってこと

アース・クエイク　大地が震えた
嘘が振り落とされて
ホントの形が残された

人殺しの雨が降る荒野の真ん中
僕らはキスができるかい？

生きてる世界にキスをしよう

クリスマス・パーティー（前書き）

架空パンクからのクリスマスプレゼントをどうぞ！

クリスマス・パーティー

手紙に乗った心の葉っぱ
君に届く前にふわりと飛んだ
ラッシュアワーはもう僕らを乗せ
二人ユラユラ窓を見た

クリスマス　クリスマス
キラキラとクリスマス

白い破片がふわふわ落ちて
きっとそれは太陽の破片
南の島にもきっとそれは降る
僕はぼんやり君に笑って

クリスマス　クリスマス
キラキラとクリスマス

本当は君に話したいこと
けど星降る夜だけでいいと思う
いい加減な話をしようよ
僕はそうっと君の手をとる

クリスマス　クリスマス
キラキラとクリスマス

いつかきっと君と一緒
光る風と一緒に君と
僕らきっと飛んで行くんだ

この世の果てまで君と二人

クリスマス　クリスマス
キラキラとクリスマス

クリスマス・パーティー（後書き）

皆さん、よいクリスマスを。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0589x/

架空パンク・リリック

2011年12月24日08時54分発行